

〈第21回環境システム計測制御学会 (EICA) 研究発表会〉

開 催 挨 拶

環境システム計測制御学会 会長 田 中 宏 明

第21回環境システム計測制御学会研究発表会の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

EICA 研究発表会は、毎年秋に2日間開催しておりますが、今年は、本日の研究発表会・講演会と明日の施設見学会をこの「晴れの国 岡山」で開催することができ、誠にうれしく思っております。

開催にあたりましては、岡山大学、藤原健史（たけし）先生、岡山市尾崎正明下水道局長をはじめ多くの地元の関係者の方々にお世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、最近、この EICA に関わる環境研究開発にいくつか目立つ動きが出てきております。特に水分野では、NEDO（独新エネルギー・産業技術総合開発機構）での省水型・環境調和型水循環プロジェクトや JST（独科学技術振興機構）での CREST 戦略的創造研究推進事業の「持続可能な水利用を実現する革新的な技術とシステム」の新研究領域が立ち上がっております。

さらに2700億円の資金を30課題に集中投資する、内閣府の最先端研究開発支援プログラムでも、水に関するプロジェクトがされ、今年5月に開催いたしました総会で講演いただいた(株)東レの栗原優先生が、MegaTon Water System の研究をリードされる予定です。

また、国土交通省でも A-JUMP（日本版次世代 MBR 技術展開プロジェクト）を最近スタートさせたばかりであります。

この EICA をご支援頂いております、企業、大学、国の研究機関などの関係者の中にも、これらの研究開発に関わられている方もおられるとおもいます。また、廃棄物、資源回収や、低炭素社会や循環社会の構築を目指した研究開発プロジェクトも実施されております。

これらの環境関連技術は、ユニットとして新技術を



入れるだけでは不十分で、計測・制御、環境モニタリング・影響評価を含むトータルシステムとして、研究開発を行う必要があります。この EICA は、まさにこの研究、開発を担当する学会として活躍しているわけです。

本日の研究発表会では、この後、水、廃棄物、資源エネルギー回収に関わる研究発表と EICA が積極手に支援しております、次世代の育成を目指した「未来プロジェクト」の口頭とポスターのハイブリッド形式の研究発表を20編にわたり行います。

午後からは、審査レビューを受けた6篇の発表と討議が行われます。研究発表の後に2つの特別講演と本年会の実行委員長をお勤めいただいております藤原先生に基調講演をお願いいたしております。

それでは、皆さん、この2日間、有効な情報交換の場として、熱心な討議と意見交換をお願いいたします。最後に、これまで以上のご支援を EICA に頂けますよう宜しくお願い申し上げます、ご挨拶といたします。